

# Leader's TOPICS

## 安全と安心 ～実験教室へのリスク対応～

安全担当理事・子どもサイエンス部会 濱辺 謙吉



「安全と安心」は何よりも優先されるべきことに疑問の余地はありません。でも、毎日多くの事故が発生し、残念ながら「危険な事故」が絶えることはありません。

「安全」とは「危険」を防止すること、「危険」とは怪我や損傷を受ける可能性であり、「リスク」とは危険なことが実際に起きる可能性と言えます。事故の多くは、その行為もたらすかも知れない危険の重大性と危険な状況に陥る可能性を正しく認識していれば防ぐことができるでしょう。しかし、危険な行動を行ったり、危険な状態を見たりしても、それが危険であると気付かないことがあります。自分の身の安全は自分で守ることが基本ですが、危険な行動や状態を危険だと認識できなければ防護処置がとれませんから、その危険認識ができない状態が最も危険だと言えます。

—————・◇・—————

過日、小学校高学年の児童が線香を使う実験の時に、線香の燃焼部分に触れて軽い火傷を負う事故がありました。この子は線香の燃焼部分が熱いことを知らずに触れてしまったようです。私達の常識が子供達の常識である時代は過ぎ去ってしまったのでしょうか。

—————・◇・—————

次に、薬品の取り扱いについてお話いたします。薬品はどんな薬品でも取り扱い方法を間違えると大きな事故に繋がる可能性があります。使用済みのてんぷら油を水酸化ナトリウムで鹸化して石けんを作る教室に参加した

主婦の一人が、自宅でも石けんを作ろうと水酸化ナトリウムを持ち帰りましたが、使う機会がないのでその処理方法の相談を受けました。水酸化ナトリウムは中和して下水に廃棄することができます。一般に、中和剤は塩酸等が紹介されていますが、それ自体が非常に危険ですのでクエン酸を使ってもらうことにしました。作業のリスクと操作方法、身体に付いた時の対処方法等を文書化して送り、保護メガネ、ゴム手袋等の保護具を着用して何とか無事に処理してもらいましたが、薬品の持ち帰りは厳に慎むべきです。

—————・◇・—————

目は最も傷付きやすい部分なので、小学校では既に水溶液を扱う実験の時には保護メガネを着用するよう指導されているようです。当リーダー会では子供用の安全ゴーグルを用意しましたので、水溶液を使用する実験時には必ず生徒達に着用させてください。

“ご安全に”



江ノ島電鉄にて：筆者